

# 「初公開！会津藩追鳥狩図屏風」

併設展 「茨城大学図書館の新収蔵品」

同時開催 写真パネル展

「被災地福島文化財・歴史資料の現在」

「新発見 常陸名所図屏風」



会津藩追鳥狩図屏風 茨城大学五浦美術文化研究所蔵

【会期】 **2015年7月11日(土)~7月26日(日)** 展示室公開時間 10時~16時

※入場無料 / 7月25日(土)は、本学オープンキャンパス開催のため混雑が予想されます。

【会場】 茨城大学図書館1階展示室

【主催】 茨城大学図書館

【共催】 茨城大学五浦美術文化研究所

【後援】 ふくしま史料ネット 茨城史料ネット



ふくしま史料ネットによる考古資料レスキュー

## 茨城大学図書館



〒310-8512 水戸市文京2-1-1 茨城大学水戸キャンパス  
JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗車、「茨大前」で下車。時間帯によっては、「茨大正門前」(最寄り)で下車することができます。(バス乗車時間は約25分)

【問い合わせ】 茨城大学図書館利用支援係  
TEL 029-228-8076  
Mail ser-lib01@ml.ibaraki.ac.jp



茨城県内で発見され、茨城大学五浦美術文化研究所の所蔵となった「会津藩追鳥狩図屏風」を、修復を経て初めて公開します。寛政4年(1792)から、会津藩は追鳥狩という軍事訓練を挙行してきました。鳥や兎を号砲を合図に解き放ち、各隊の藩士が敵との対決しながら、それを捕獲する大がかりな狩りです。藩主から手柄に応じた褒章も行われ、藩士の武芸への意識を高め、また軍事演習としての意味ももっていました。幕末にかけて藩内外の注目を集める行事となり、屏風や絵巻などの絵画作品も残されています。ちなみに水戸藩でも、斉昭の時代に追鳥狩が始められますが、こちらはより閲兵式としての要素が強かったようです。今回、本学の所有となった作品は、これまで確認されているいずれの作例とも異なる画像構成を示すもので、幕末か明治初年頃の製作かと推定される名品です。茨城と福島、東北とを結ぶ、この作品の公開にちなんで、東日本震災で大きな被害を受けた福島の文化財や歴史資料が置かれている厳しい状況と、それを保全しようとする試みを写真パネルで紹介します。あわせて東北で新たに発見された、常陸国内の寺社や名勝を極彩色で描いた「常陸名所図屏風」を写真パネルで公開します。